

Oita Yufumi

**VOL.19**

Hospital

発行/令和4年7月

# 大分ゆふみ

# 病院たより

 大分ゆふみ病院



## 院長ご挨拶



院長 一万田 正彦  
いちまたまさひこ

### 『ホスピスの役割とは』

大分ゆふみ病院には、がんの治療が難しくなり、標準的な緩和治療・ケアを行っているにもかかわらず、苦痛症状や辛さが残り、症状の改善が難しい状況となって入院される方が多くいらっしゃいます。患者さんはいろいろな苦悩を抱えています。私たちは身体の苦痛症状をできる限り和らげ、こころの重荷を少しでも軽くできるように関わり、ささやかながらもこれまで諦めていた日常を取り戻せるようにサポートしています。困難な時であるからこそ、周りの人の支えが必要になります。ホスピスでのケアを行っていく中で、患者さんやご家族が笑顔を見せてくれた時は、私たちにとっても大きな喜びとなります。

ところが令和2年の春以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活が一変しました。日常生活はいろいろと制約を受け、感染の不安を抱えながらの日々を過ごさざるを得なくなりました。一般病院では患者さんへの面会は、ご家族でも殆どできなくなりましたが、大分ゆふみ病院でも、患者さんへの面会は、一部近親者のみに制限せざるを得なくなりました。そのような状況においてもホスピスの大切な役割である、患者さん、ご家族の時間を大切にさせていただくという目的のために、日々何とか工夫をして対応しています。早くコロナ禍が去って、以前のような日常を取り戻せる日を心より願っております。

ただしコロナ禍前に比べると、治療困難ながん患者さんの療養先は、自宅が増えています。慣れ親しんだ自宅で、ご家族や親しい人に囲まれて過ごす時間はかけがえのないものと思います。しかし、苦痛が強かったり、介護力が不十分であったり、ご家族への負担を心配されたり、不安が強かったりする事で、自宅療養が困難になる時があります。そのような方々のために、ホスピスは存在すると考えています。時代が変わり、医療も進歩し、世の中の状況が変化していく中で、専門的緩和ケアの提供施設である大分ゆふみ病院は、がん患者とその家族の支えとなるべく日々精進を重ねております。そして患者さんご家族にとって「ここに来て良かった」と言ってもらえるような病院を目指しています。

大分ゆふみ病院が、がんで苦しむ、患者さんやご家族の支えの一助となれば幸いです。

## ご家族より

ご家族からのお手紙をいただきました



三世代揃って

### 「幸せは何気ない日常に」

佐藤 美紀 《患者様のご家族》

父が旅立ってから早いもので、もうすぐ2回目の春を迎えようとしています。17年前の母の時、そして2年前の父の時も満開の桜と一緒に眺めました。綺麗に咲く桜は大好きなのに少し切ない気持ちにさせられます。それまでの病院での半年間、抗がん剤や放射線治療を受けたけれど、それも効かなくなり最後に父が選んだ答えがゆふみ病院の入院でした。悲しい選択だなと父本人も私たち家族もそう思っていました。でも現実はいい意味でそれを裏切ってくれたのです。

入院してからは、姉と交代で父の傍に居て一緒に食事をし、庭に咲く季節の花々を見て綺麗だと言ひ、飛んでくる鳥を見ては可愛いと言ひ、医師や看護師さんとたわいもない話をしたり。何気ない毎日を一緒に過ごすことがどれだけ幸せで尊いものか、ゆふみ病院での2ヶ月間の生活は、そんな当たり前の日々の幸せに気づかされてくれました。

頼もしい医師の方たち、優しさ溢れる看護師やスタッフの皆さんのおかげで、なにも治療は、していないのに嘘のように食欲が戻り父が笑顔になっていくのが分かりました。人を思いやる気持ち、優しさは奇跡を起こすのだと、あらためて思いました。

私が泊まったある日の夜に父と2人で色々な話をしました。母と父で何度も行った旅行の事、40年間勤めた仕事の事、苦楽を共にした組合の仲間の事、私の子ども達と一緒に育ててくれた事など思い出話を何時間も。その時、私が今までどうしても言えずにいた一言を言いました。「お父さん、今までありがとうね。」父は「うん。うん。」とだけ頷いていました。そして「我が人生に悔いなし！いい人生だった。」と。病気で息をするのもしんどいであろう瞬間にこの台詞を言える父に驚くと同時にまさに生を生ききった父を本当に凄いと思いました。その言葉を最後に聞くことができた私たち家族も父自身も本当に幸せだと思います。最後になりましたが、一万田先生、中野先生、担当看護師を始めとするゆふみ病院のスタッフの皆さま、本当にありがとうございました。父と私たちを「ゆふみの家族の一員」として迎え入れて下さった事、心から感謝しています。今はコロナ禍により想像以上に大変な毎日だと思いますが、どうかお身体を大切にされて下さい。共にこの時を乗り越えましょう。

## 春

春、暖かい陽気に包まれて  
中庭の花が色鮮やかに咲き、  
院内にも明るい笑顔が広がります。



家族で散歩♪ 素敵な写真が撮れました！

ノンアルコールビールで乾杯～！



『Mちゃん、よく頑張ったね。一緒に雛祭りが出来たね！』

## 秋

庭に、竹を並べて明かりを灯すと  
夜の美しい散歩道。患者さんや  
ご家族の心をそっと照らします。

お月見、可愛いうさぎ達♪



思い出の一枚。皆でウサギになってハイチーズ！

初めての竹灯りを観て、にっこりピース



院内の散歩道

## 夏

緑が濃くなり始めた夏の始め、  
可愛い訪問者の小鳥のさえずりが  
賑やか。心弾む時間が流れます。

初夏の日差しに麦わら帽子でお散歩♪



夏祭りに向けて、着物のモデルになりました♪  
とてもお似合いです♡

浴衣選びがとても楽しかったですね。  
お似合いです！



父の日、奥さんからの気持ちを花に添えて…

## 冬

クリスマスが近づくと  
ラウンジの薪ストーブに火が入り  
訪れる人の心をあたためます。

ラウンジに飾られたクリスマスツリーに  
負けないくらい笑顔も輝いています。



コロナ渦の中のクリスマス会。  
サプライズプレゼントに  
はにかむ笑顔が素敵です。



お孫さんの上手な絵とともに！

## ホスピスボランティア活動について

大分ゆふみ病院のボランティア活動は、コロナ禍の影響で今も休止状態が続いています。ボランティアスタッフは、病院職員と同じチームの一員であり、大切なケアの提供者のひとりです。喫茶の提供、ピアノやギター演奏、ハンドマッサージや傾聴など毎日のボランティアスタッフの活動は、大分ゆふみ病院の癒しであり、潤いと和みを与えてくれる大切な時間です。ホスピス緩和ケアのボランティアの役割の基本は「そこにいる」ことです。ボランティアがホスピスにいて安心を提供し、患者さんの日常生活を支え、社会の風を運び、開放的な空間を作り出します。病院での患者さんやご家族は、私たち医療者の想像以上の緊張感を抱えています。そこに「普通の人」としてボランティアがいれば、患者さんやご家族は安心感を持つことができます。コロナ禍が終息し、病院に日常が戻り、ボランティアスタッフの活動が再開できる日を心待ちにしています。



ホームページに『看護師ブログ』を掲載しています。ぜひ、ご覧ください！

大分ゆふみ病院

検索

## ■研修・施設見学受入れ状況 (2021.4.1~2022.3.31)

### 研修

看護学生研修 56名 (大分大学医学部 看護学科)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、実習の一部受入を制限しています。

### 施設見学

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、患者さん、ご家族以外の施設見学を原則中止にしています。

※入院患者さん、ご家族には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願い致します。

## ■ホスピス診療記録 (2021.4.1~2022.3.31)

### ■入院患者数

173名 (男性 85名、女性 88名)

### ■平均年齢

74歳 (男性 75歳、女性 74歳)

### ■住所分布

大分市 122名、大分市外 51名

(大分市外：別府市 18名、由布市 8名、佐伯市 6名、臼杵市 3名ほか  
県内市町 15名、県外 1名)

### ■紹介元病院

大分大学医学部 附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分三菱メディカルセンター、別府医療センター、大分岡病院、大分医師会立アルメイダ病院、九州大学病院 別府病院、有田胃腸病院、大分記念病院、厚生連 鶴見病院、国東市民病院、大分医療センター、やまおか在宅クリニック、うえお 乳腺外科、大分健生病院、明野中央病院、大分中村病院、天心堂へつぎ病院、大分共立病院、新別府病院 ほか

### 入院までの流れ

#### ①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

#### ②入院相談外来(医師による診察面談)

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。※紹介状とX線フィルムなどを持参していただきます。

#### ③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー(相談員)によって行われます。

#### ④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

#### ⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行います。

### 病院理念

大分ゆふみ病院は  
『今を生きる』患者と家族を支えます。

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

## ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、  
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

### ■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

### ■がん疼痛緩和外来 [要予約]

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。※要予約

### ■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

### ■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

### ■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎ 097-548-7272

電話受付時間 / 月～金曜日 AM9:30～PM4:30 (祝日は除く)

#### 交通のご案内

- バスをご利用の場合  
大分駅より大分交通<机張原>行き、  
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合  
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分